



平成28年9月23日

大阪市立本田小学校

研究部

今年の研究テーマ

ともに学びともに高め合う子供を育てる

—アクティブラーニングを通じて、やりとげる力、つなげる力、支える力

『本田流 21 世紀型スキル』の育成—

5年生 研究授業 体育「リオに負けるな！ ふわっとジャンプ！」 (走り幅跳び)「陸上運動領域」

●授業のポイント

<アクティブラーニングを成立させる学習要素について>

<学習プロセス>

走り幅跳びの学習は、助走・踏み切り・高さ・空中姿勢・着地の技能を習得し、それを一連の流れの中で行う。そこで、技能の習得のために、自ら課題を発見し、課題にあった場で技能習得をめざす。振り返りは、グループで相互にアドバイスし合い次への課題を持つという学習プロセスを繰り返していく。試しの運動 ⇒ 話し合い ⇒ 課題別練習 ⇒ 一斉検証 ⇒ まとめ・振り返りを繰り返すことで、学習の流れを理解させたい。

本時では、踏み切りから高く跳び上がる技能【高さ】の習得を目指すために、撮影グループで試しの運動を行い、課題に対するコツや考え方を話し合い、全体で共有する。児童が課題別の練習の場へ移動し、コツを声掛けし合いながら技能習得をめざす。練習の場は、「高く跳び上がる」技能の習得のために4種類の場を設定し行う。(①踏み切り板での踏み込み②跳び箱からジャンプ③ハードルの跳び越し④目標に向かってのジャンプ)いくつかある練習の場の中から、自分の課題に合った練習の場を選べるように支援する。最後に、実際に走り幅跳びを行いめあてが達成できたかを確認め合うようにしたい。

<学習ツール：ICT機器(タブレット)、学習カード>

タブレットの動画比較機能を活用し、学習のはじめの動画と学習末の動画を比べて視聴する。本機能には、動画のスピードを変える機能や2つの動画を並べて比較して視聴したり、動画を重ねたりする機能がある。この2つの動画を比べる機能を使い、本時のポイント部分に焦点をあてて確認することができる。また、2つの動画を重ねて表示する機能も活用することができる。なお、動画撮影にはタブレット台を活用し、同じ高さで撮影することができるように工夫する。

本時では、力強く踏み切って体を高く持ち上げる跳躍ができることがポイントである。そのため、正面から撮影し、跳び上がりの胸の位置を比較できるようにする。授業の最後に、授業のはじめと終わりに撮影したICT機器の動画機能を使用し、自分や友だちの跳び方を再生しながら、体の持ち上がり具合にポイント絞って確認し、アドバイスし合う。動画を何度も再生しながらポイントを絞って確認できるため、話し合いがより活発になるのでないかと考える。さらに、友だちのアドバイスを生かしてよりよい跳び方ができた児童が増えれば、友だちと学び合うことの楽しさを味わうことができる。自らの伸びを確認できることにより、学習の成果が確認でき、意欲が向上すると思われる。

また、学習カードを使用して、自分が課題に対してもった考えを言葉で表現できるようにし、思考を可視化する。そのために活動中にポイントとなる言葉を提示して意識させるようにする。また、友達の良いところや頑張りを見付け、それを伝えることで自信にも繋がると考える。